

Title	新刊紹介："天體位置表"海軍水路部編纂
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1943), 23(262): 136-137
Issue Date	1943-03-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/168579">http://hdl.handle.net/2433/168579</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

# 新 刊 紹 介

“**天體位置表**” 海軍水路部編纂 日本郵船株式會社にて販賣 予 14.50

帝國海軍の水路部から“天體位置表”が愈々發行された。本年度のものが創刊で、昨年十二月30日發行となつてゐるが、實際吾々の手に渡つたのは一月下旬であつた。水路部は今まで航海や航空用の年表などを出してゐたが、新時代に對處するため、茲に純天文用の曆表を發行するに至つたのである。今回の大戦以來、今までの歐米の天體曆の入手が困難となり、殊に大東亞戰勃發以來は全く其れは絶望となつたので、取り敢へず1943年度から精密な天體の位置について、昨年以來不安に驅られてゐたのであるが、此の水路部版が幸ひに發行されることになつたので、安心したわけである。

この創刊號を開いて見るに、A版500頁の堂々たるもので、印刷は鮮明であり、紙も上等で、堅牢である。内容は、

巻頭に、七曜表、緒言、目次、天文常數。

第1—13頁、**太陽**の毎日の赤經赤緯、黃經黃緯、視差、視半徑、時差率、恒星時、距離、章動、世界時等。

第14頁、5日毎の黃道傾斜、光行差、太陽平均黃經、月相、月の遠近。

第15—87頁、毎日毎時の**月**の赤經と赤緯。

第88—99頁、半日毎の月の黃經黃緯、視差、視半徑、月齡、南中時刻。

第100—105頁、毎日の**水星**の赤經赤緯、地心距離、視差、視半徑、南中時刻。

第106—111頁、〃 **金星** 〃 〃 〃 〃 〃

第112—117頁、〃 **火星** 〃 〃 〃 〃 〃

第118—123頁、〃 **木星** 〃 〃 〃 〃 〃

第124—129頁、〃 **土星** 〃 〃 〃 〃 〃

第130—135頁、毎日の**恒星**日々常數 A, B, C, D, E, 及び  $\tau$ 。

第136—141頁、毎日の**獨立恒星**常數 f, g, G, h, H, i。

第142—157頁、FK3 目錄の**基準恒星** 925 個の一覽表。

第158—384頁、上記の内、兩極附近を除く 905 星の 10 日毎の赤經赤緯。

第385—444頁、南北**兩極附近の 20 星**の毎日の赤經赤緯と短週期項。

第445—452頁、**日月蝕**に關する事項。

第453頁、主な**遊星現象**の一覽表。(但し、水金火木土のみ)

第454—467頁、**北極星**に關する測地用の諸表。

第468—473頁、**恒星時**と**平均時**との相互換算表。

第474—478頁、**天文略說**。

第479—491頁、諸表の**説明**。

第492—496頁、**恒星索引**。

大體に於いて、日月五遊星に關しては米曆と同様な形式で、經緯度は $0.1$ の程度まで擧げてあり、又、恒星については獨曆と同様な配列となつてゐて、經緯度は原則として $0.01$ まで計上せられ、只、極附近の星のみは、赤經が $0.01$ までとなつてゐる。従つて、此等の事項については、獨佛英米等の外國曆表と全く同程度で、第一流のものである。殊に925個の“FK3”目錄星全部の10日毎の視位置を表示した點は、世界無比と言つて宜い。

只、既存の諸外國曆に比して、當然あるべくして、茲に缺けてゐるのは、太陽については、毎日の直角座標  $X, Y, Z$ 。

五遊星については、各種の日心座標（黃經、黃緯及び動徑）

天王星、海王星、冥王星及び小遊星に關する資料全部。

掩蔽に關する資料全部。

日月諸遊星の物理表全部と、諸衛星に關する資料全部。

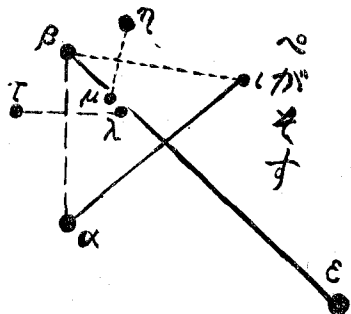
内外各地の天文臺一覽表全部。

しかし、水路部からは、ほかに航海年表を發行してゐて、その中には、日月の出沒や、潮汐の豫報等も行はれてゐるのであるから、それらは、この“天體位置表”を或る程度まで補ふ役にも立つ。

尙、この“天體位置表”を見て、將來のために種々希望したいこともあるが詳しくは後日に譲る。只、多くの數値中に+-の符號などが餘りに略し過ぎてあつて、不便であり、錯誤を起し易い。これは是非必要な數値には全部に+-を附して貰ひたい。現に、一寸拾つただけでも、第157頁のSf星の赤緯の年差が-でなくて+となつてゐる等は、此の簡略指示法のために起つたものと思はれる。(Y)

## 別の十字星

拜啓冠省（前略）さて小生も左圖の如く、二組の大小十字が出來上る事に氣付きました。



- (1)  $\beta$  と  $\epsilon$  を長軸、 $\alpha$  と  $\iota$  を短軸 } の二組  
(2)  $\beta$  と  $\alpha$  を長軸、 $\tau$  と  $\lambda$  を短軸 }

この内(2)の方は、 $\beta, \alpha$ の二等半星を長軸として、しかも北極を指してゐる點ナカナカ面白いと思ひました。

一月二十九日

伊達英太郎